

編集後記

はじめて筆をとらせていただきます。  
 今月号の特集「けんせつ小町活躍現場見学会」の開催と同じ時期に「ACe建設業界」の編集に携わることになり、実際に私自身も小町が活躍する現場にも訪れることができました。現場の仕事を楽しそうに体験している子供たちを見て、未来のけんせつ小町の誕生と建設業の発展を期待せざるを得ませんでした。まだまだ不慣れな点がありますが、さらなる建設業への理解促進を目指し、尽力していきたいと思っております。(K)

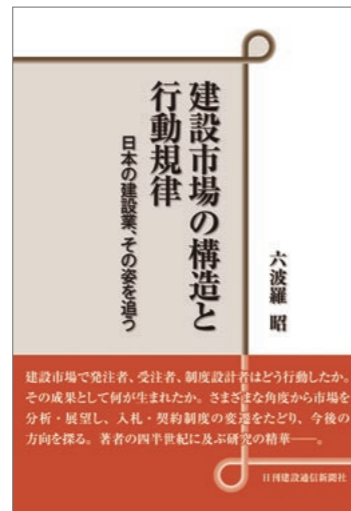
今年のけんせつ小町活躍現場見学会も昨年同様に暑い催しとなりました。子供たちは額に汗を流しながら、初めて見る光景に興味津々の様子。特に大阪のダム現場では視界に収まらない広大な現場と巨大な重機に触れ、スケールの大きさに驚いていました。ダムの役割のレクチャーもあり、建設業への驚きと関心を得るきっかけになったのではないのでしょうか。子供たちに芽生えた興味を保ち、今後も育てていくことが大事だと感じました。(A)

発行 一般社団法人 日本建設業連合会  
 〒104-0032 東京都中央区八丁堀2-5-1 東京建設会館  
 TEL 03-3553-4095  
 FAX 03-3551-4954  
 URL <http://www.nikkenren.com/>  
 発行者 有賀長郎  
 企画・編集 一般社団法人 日本建設業連合会 広報委員会  
 制作 株式会社Kプロビジョン  
 デザイン 株式会社コンセント  
 印刷 株式会社耕文社

©2016 日本建設業連合会  
 「ACe建設業界」は日本建設業連合会の登録商標です

年間購読料：4,800円(送料込)

新刊紹介



**建設市場の構造と行動規律**

日本の建設業、その姿を追う

著者：六波羅 昭  
 発行：日刊建設通信新聞社  
 仕様：A5判 342ページ  
 定価：2,700円(税別)

バブル崩壊から人口減少へと続く「建設市場激動の時代」の20年間。実際、この20年間は建設市場激動の時代であった。バブル経済崩壊の後、公共投資に頼って内需を維持しようとする時代であったが、建設投資のピークは長くは続かなかった。この間にわが国は少子高齢化の時代を迎え、そして人口はピークを過ぎていよいよ人口減少という全く新たな局面に突入した。

そのような時代に、建設市場で発注者、受注者、制度設計者はどう行動し、その成果として何が生まれたか。

それを解明し、その先に何があるかを探るには、市場構造の分析とともに発注者と受注者の行動規律のあり方を改めて考えてみる必要があると著者は考える。

著者の六波羅昭氏は、建設省計画局建設振興課

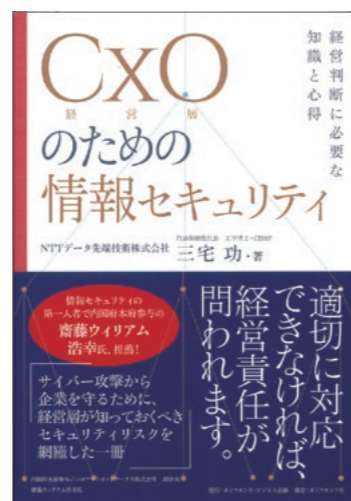
(現・国土交通省総合政策局建設市場整備課にあたる)を振り出しに建設経済研究所、勤労者退職金共済機構、建設業情報管理センターなどに勤務した。

6年前には大学院生になって、最新の経済政策論や産業組織論に触れたという。まさに建設業と寄り添った半生といえよう。

本書は、そのような経歴をもつ著者の長年にわたる研究の精華である。

本書の構成は次のとおりである。

- 序章 はじめに——変転する時代をとらえる
- 第1編 建設市場の構造
- 第2編 建設市場の競争性
- 第3編 公共工事調達制度と建設市場
- 第4編 建設請負契約の市場ルール
- 終編 新たな建設市場を拓くための4つの課題



**CxO (経営層)のための情報セキュリティ**  
 経営判断に必要な知識と心得

著者：三宅 功  
 発行：(株)ダイヤモンド・ビジネス企画  
 仕様：A5判 272ページ  
 定価：1,500円(税別)

三菱東京UFJ銀行のフィッシング詐欺、ベネッセの内部犯行による名簿流出、日本年金機構への標的型攻撃など情報漏えいが至るところで頻発し、それに伴う個人情報保護法の改正なども相まって、情報セキュリティに関する経営者の意識が格段に上がってきている。一方で、情報セキュリティを解説する書籍といえば、情報管理者向けの専門的な内容のものや、事例を紹介して危機感を煽ることに終始している書籍が多く、実際に情報セキュリティをどのように考えるべきか経営者層に伝える書籍はほとんどない。

情報セキュリティを完璧にすることがほとんど不可能な時代に、情報セキュリティ対策をどう経営に組み込んでいくか、頭を悩ませている経営者が多数いることだろう。

情報セキュリティの専門家である著者・三宅功氏(NTTデータ先端技術(株)社長)は本書の中で、その仕組みと疑問について経営者(CxO)が押さえておくべき情報セキュリティの常識や事前にどのような

対策を打つべきなのか、どういう体制を構築しておくべきなのか、という考え方を紹介している。最新事例や技術的背景、リスク対策から事後対応まで、経営層がどう取り組んでいくべきか、経営者でもある情報セキュリティのプロが経営判断に少しでも参考に資するようにと本書を取りまとめたそうである。

また本書は、経営者ではなく管理者や担当者も、このような整理の仕方では経営者に説明すると理解を得ることができるという参考になるのではないだろうか。

本書の構成は次のとおりである。

- 第1章 経営者が知っておくべき情報セキュリティ
- 第2章 情報セキュリティリスクの捉え方とその現状
- 第3章 理解しておくべきサイバー攻撃の基本
- 第4章 情報セキュリティに対する体制のあり方
- まとめ 経営層は情報セキュリティにどう取り組むべきか